

令和5（2023）年度



池田小学校だより

<学校教育目標>

学びをつなげる
友達とつながる
社会へつなげる

令和5年10月吉日
京都市立池田小学校
校長 青山 剛
TEL 075-571-6872
FAX 075-571-6896

全国学力・学習状況調査の結果

4月18日に、本校6年生35名を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果がこのたび公表されました。

本調査は、今年度は国語科と算数科の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されております。生活習慣と学力の関係など、本校の子ども達の状況をお伝えします。



総合結果(国語・算数・理科)

算数科においては、全国や京都府の平均正答率を下回る結果となりましたが、国語科においては、全国の平均正答率を上回る結果となりました。また、無回答率は昨年度と比べて大きく改善しています。分からないとすぐにあきらめてしまうのではなく、粘り強く取り組もうとする姿勢が育ちつつあります。

国語科より

総合結果

「知識及び技能」においては、すべての項目に関して、全国平均正答率を上回ることができました。基礎・基本の力を身に付けることができているといえます。「思考力、判断力、表現力等」においては、『話すこと・聞くこと』『読むこと』について、全国平均正答率を上回る結果となりました。しかしながら、『書くこと』について、課題が残る結果となりました。

『話すこと・聞くこと』

学校ボランティアの人たちを全校に紹介するために、登下校でお世話になっている見守りボランティアにインタビューをするという問題でした。ほとんどの問題が、全国や京都府の平均正答率を大きく上回っていました。しかし、話の内容を捉え、話し手の考えと比較して自分の考えを書く問題においては、全国や京都府の平均正答率を少し下回りました。今年度は、話したり・聞いたりする力の向上に向けて、ペアトークやグループ交流等、発表する機会を多く設けたり、その中で、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を意識しながら聞いたり、書き記したりする活動を繰り返して行ってきました。とはいえ、まだまだ『書く』ということに課題があるので、今後もこのような活動を継続して行っていき、『話すこと・聞くこと』の力をさらに高めていきたいと考えています。

『書くこと』

図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題においては、全国や京都府の平均正答率を大きく下回りました。また、他の問題よりも無回答率が高い結果となりました。本校の児童は、書くことへの苦手意識が強い傾向にあります。そこで、低学年の時から書きたいと思える学習の工夫や、書き終わった後に成就感が持てるような評価の工夫をするなど、子ども達の書く意欲を高めるような取組をしていきたいと考えています。そのような取組を進めることで、書くことで自分の考えが整理されることよさや自分の気持ちを書いて相手に伝えることの喜びを実感させ、『書くこと』の力をさらに高めていきたいと考えています。

『読むこと』

複数の文章を選んで読み、健康に過ごすために、自分ができそうなことを考えてまとめるという問題でした。資料を読み取る問題については、全国や京都府の平均正答率を大きく上回っていました。しかし、『話すこと・聞くこと』においてもそうでしたが、自分ができそうなことを考えてまとめる『書く』問題については、全国や京都府の平均正答率を大きく下回っていました。今後も、『読む』力を高めていけるように、本に親しむ時間を多く設けていきたいと考えています。読書は、自



分の内面を耕すだけでなく、読解力・語彙力を高める上でも効果的です。今後もたくさんの本に触れ、文字に慣れることができるように、週1回の読み聞かせデー、醍醐中央図書館との連携等の取組を継続していきたいと考えています。

算数科より

総合結果

算数科においては、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データ活用」の4つの領域からの出題でした。『数と計算』『データ活用』の領域においては、全国の平均正答率を上回ることができました。それ以外の領域においては、課題が残る結果となりました。

数と計算

立式をすることはできるが、求め方と答えを式や言葉を用いて説明したり、式を場面と関連付けて読み取ったりする問題に難しさを感じるのか、正答率が低いです。今後は、説明をする力や論理的に考える力をつけるために、解答に至るまでの道筋を大事にした学習の流れを意図的に授業の中に取り入れ、自分の考えがしっかりと書けるようにしていきたいと考えています。

「図形」

テープを折ったり切ったりして図形を作るときに、複数のつくり方を比較して、その結果を考えるという問題でした。この問題を解くためには、図形の意味や性質を正しく理解していることが必要になります。児童の解答を見てみると、台形や正方形の意味や性質についての理解は正答率が高かったですが、正三角形の意味や性質についての理解の正答率が低かったです。今後は、文字による理解だけにならないように、一人ひとりが定規、分度器、コンパスを使って、試行錯誤しながら作図するなど、算数的活動を重視する授業展開を行っていきたいと考えています。

変化と関係

比例の問題では、表の数字を埋めたり、表の中から数を抜き出して説明したりする問題の正答率は高かったですが、比例を用いて、知りたい数量の大きさのもとめ方と答えを式や言葉で説明する問題の正答率が低かったです。やはり、記述式になると正答率が低くなる傾向があるようです。また、百分率で表された割合についての理解についても課題が残る結果となりました。今後は、計算だけではなくその意味を理解して問題を解くことができるように、4年生の時から言葉の意味をしっかりと理解して問題を解くことができるよう系統立てて指導をしていきたいと考えています。

データ活用

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉えて考察するという問題でした。この問題も、記述式になると正答率が低くなる傾向はあったものの、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題や二次元表から、条件に合う数を読み取る問題においては、全国や京都府の平均正答率を上回る結果となりました。学校生活でも、表を活用やグラフを活用する場面はたくさんあります。学んだことが学習だけで終わることがないように、日常生活に活かせる力として身に付けられるよう、今後も指導していきたいと考えています。

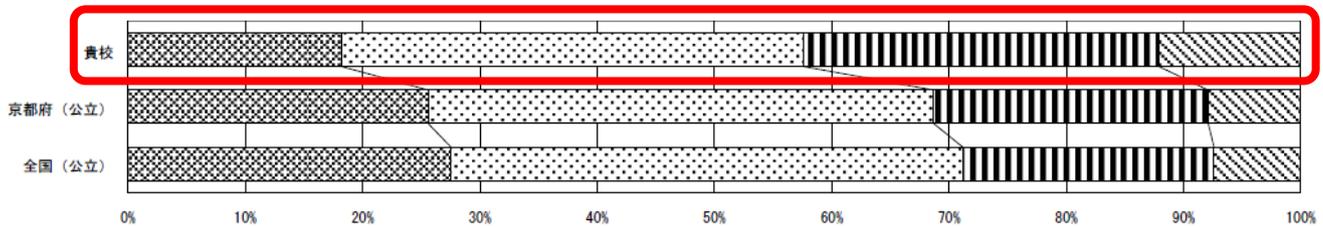


児童質問紙より

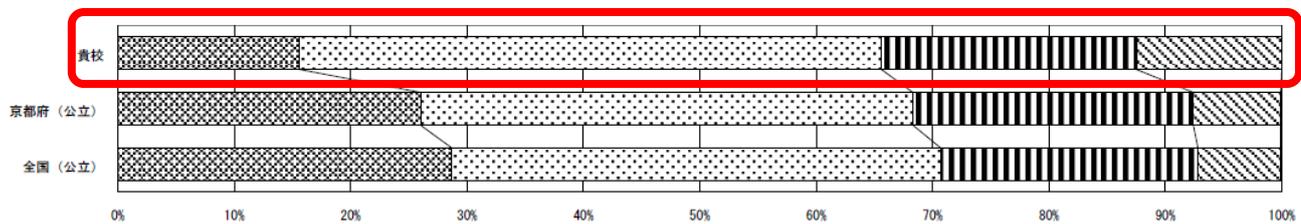
Q. 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答

令和4年度



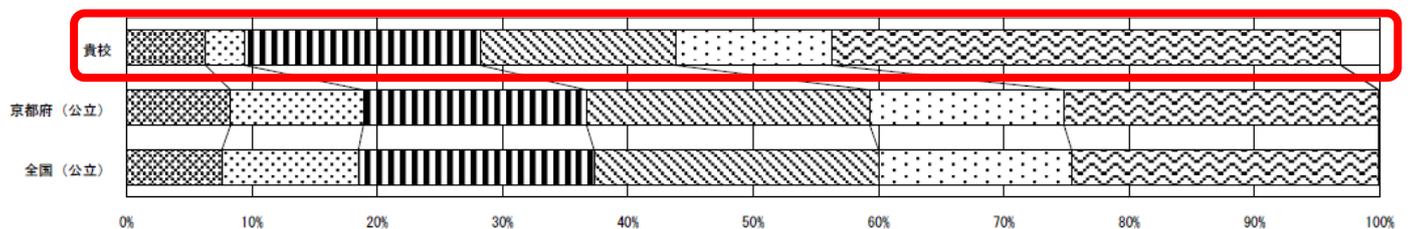
令和5年度



本校では、栗陵中学校ブロックの取組として、ここ数年、自学自習ができる子の育成を目指してきました。昨年度と比べると、肯定的に回答した児童が約10%増えました。ここ数年の成果であるといえます。とはいえ学校評価では、「自主学習に時間がかかる」「内容を決めるのに困っている」等、ご意見をいただいています。まだまだ定着するには時間がかかると思いますが、本校では、低学年では「自主学習のやり方や内容の支援」、中学年では「自主学習の継続への支援」、そして高学年では「テストに向けての計画的な取組への支援」を行っています。また、児童の自主学習ノートを掲示したり、内容に困っていそうな児童に対しては、アドバイスをしたりもしています。小学校のうちは、今後の家庭学習習慣の土台を作る大切な時期です。保護者の皆様には子ども達を見守り、励まし、ご支援いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

Q. 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

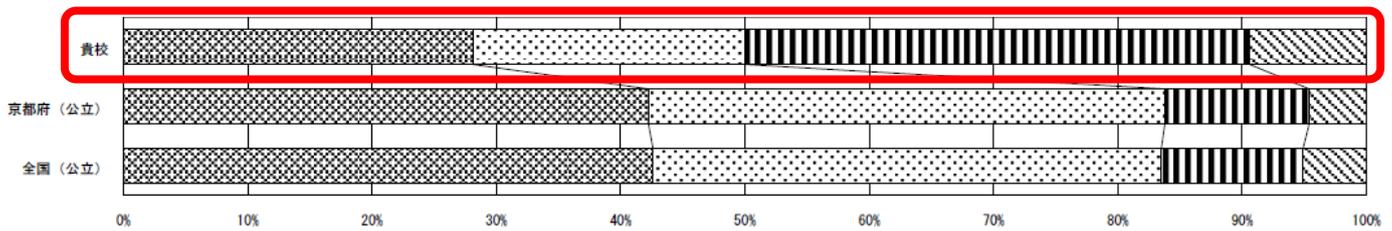
☐1. 2時間以上 ☐2. 1時間以上、2時間より少ない ■3. 30分以上、1時間より少ない ☐4. 10分以上、30分より少ない
☐5. 10分より少ない ☐6. 全くしない ■ その他 □ 無回答



学校では毎朝15分間の読書タイムを設定し、全学年で読書に取り組んでいます。また、学習時間に図書室を定期的にご利用したり、休み時間に図書室で貸し出しをしたりしています。週2日(火・金)、学校図書館司書が図書室で本の整理や学習に必要な図書の準備、図書についての指導を行っています。また、毎月、月末の金曜日には「読み聞かせデー」を設け、教職員による読み聞かせもしています。さらに今年は、醍醐中央図書館の方に来ていただいて、ブックトークもしていただきました。このように学校では、児童にとってより身近なものになるよう、積極的な図書室の利用や読書の時間の確保、学級文庫の充実に努めています。ご家庭でも、図書館の利用やノーゲームデーを設定し、ゲームの代わりに読書をするなど、本に触れる機会を作っていただければと思います。

Q.自分には、よいところがあると思いますか。

☒1.当てはまる ☐2.どちらかといえば、当てはまる ☐3.どちらかといえば、当てはまらない ☒4.当てはまらない ☐その他 ☐無回答



本校の児童は、全国や京都府と比べると、自己肯定感・自己有用感の低さが目立ちます。そのため、人前で発表することに消極的になったり、新しいことに挑戦したりすることが苦手です。そこで学校では、全教職員で全児童を見守り、いろいろな角度から褒めるようにしています。また、結果ではなく過程を認めるようにしたり、活躍の場面を増やしたりして、児童の自己肯定感を高めるようにしています。また、道徳の時間や学活の時間にはよいところ見つけをしたり、帰りの会では「今日のキラキラさん」と題して、今日がんばっていた児童や優しさが光っていた児童を発表したりして、他者評価を行っています。ご家庭でも、学校と同じように、子どもたちが自信を持って、自分の得意を伸ばしたり、自分の苦手を克服したりできるよう、認めて、褒めていただけたら嬉しいです。

全体を通した本校の成果と課題

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していったりするためのものです。結果が学力のすべてを表しているわけではなく、順位を競うものでもありません。

本校では、「学びをつなげる 友達とつながる 社会へつなげる」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様の協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

その中で「確かな学力」が具体的に目指すことは、「基礎的・基本的な知識や技能」のほか、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」、「学ぼうとする意欲」、そして「生涯にわたって学び続ける力」を身につけることです。学校だけでなく、地域全体を学習のフィールドとしてとらえ、幅広く身につけていくことがとても重要です。

その基盤となる「自分で勉強する習慣」は、学習計画を立てたり、見通しをもって行動したりする力につながることから、この習慣が学力向上の大きなポイントであると考えています。本校では、栗陵中学校・醍醐西小学校、池田東小学校と学力情報を共有し、学習方法や個にあった指導について検討するなど、小中一貫教育に取り組んでいます。その中で、数年前から、自学自習の力を育む取組を進めてきました。その成果もあり、少しずつですが学力は向上しつつあります。とはいえ、予習・復習など家庭学習の時間が短い児童も依然として多く、6年生だけでなく、本校全体の大きな課題となっています。

また、学習の基盤となるのは、読書です。子どもたちは読書によって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。そして、新しい情報を獲得することにより「知的好奇心」をふくらませ、生涯にわたり、学び続けようとする心が培われます。同時に、子ども自身が自分の生き方について考えたり、心のよりどころを見出したりすることにつながります。一日30分でも1時間でも、その積み重ねが大切です。ご家庭でも、図書館の利用やノーゲームデーを設定し、ゲームの代わりに読書をするなど、本に触れる機会を作っていただければと思います。

